

(1) 図書館（中央図書館・地区図書館）**(現状と課題)**

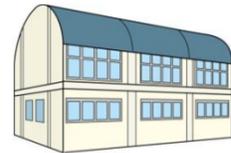
- コミュニティ施設の図書室とネットワーク化されており、市内全域にサービス網を形成している。
 - 半数以上が築30年以上であり、今後更新需要の本格化が見込まれる。
 - 他用途に比べ利用者数が多い（コミュニティ施設も図書室利用が多い。）
- ほか、60歳代の利用、貸出・返却目的での利用が多く、今後もニーズの増加が見込まれる。

**(検討の方向性)**

- 高齢化の急速な進行を見据えつつ、図書機能への高いニーズに対応するため、小中学校の開放図書館の活用など身近な場所への図書機能の効果的な配置について検討が必要。
- 利用目的を踏まえ、貸出・返却等のサービスは身近な場所への配置を、調べ物やレファレンス機能などの中核的な図書機能については拠点等への配置について検討が必要。

(2) スポーツ施設①（区体育館）**(現状と課題)**

- 半数以上が築30年以上であり、今後更新需要の本格化が見込まれる。
- 年齢層別では60歳代の利用が最多で、運動・健康づくりを目的とした個人利用が多く、交通手段では自家用車による利用が多い。
- 今後は、老年人口の増加に伴い、運動・健康づくり機能のニーズの増加が見込まれる。
- 2km圏内には、学校開放を行っている小中学校が多数存在するほか、運動・健康づくり機能については、類似機能を持つ民間のスポーツ施設も1施設以上配置されている。

**(検討の方向性)**

- 今後ニーズの増加が見込まれる運動・健康づくり機能については、より身近な地域で確保するため、小中学校のさらなる活用や、民間施設との連携について検討が必要。
- 競技機能については、行政区により異なる人口推移や利用状況等の地域の実情を踏まえるとともに更新需要の本格化を見据えて、1区1体育館といった配置基準の見直しや駅周辺などの拠点への配置について検討が必要。

(3) スポーツ施設②（区温水プール）**(現状と課題)**

- 施設間で面積当たり利用者数にはバラつきが見られる。
- 年齢層別では60歳代の利用が最も多く、主な利用目的では運動・健康づくり、利用形態では個人利用、交通手段では自家用車による利用が最多である。
- 今後は、老年人口の増加に伴い、運動・健康づくり機能のニーズの増加が見込まれる。
- 多くが2km圏内に類似機能を持つ民間のスポーツ施設も1施設以上配置されている。

**(検討の方向性)**

- 今後増加が見込まれる運動・健康づくり機能を確保するため、類似機能を持つ民間施設との一層の連携について検討が必要。
- 今後、行政区により異なる人口推移や、利用状況等の地域の実情を踏まえ、1区1公的温水プールといった配置基準の見直しや駅周辺などの拠点への配置について検討が必要。

(4) スポーツ施設③（健康づくりセンター）**(現状と課題)**

- 60歳代の利用、週2～3回程度の利用頻度が最も多く、運動・トレーニングや運動教室を目的とした利用が多い。
- 今後は、老年人口の増加に伴い、運動・健康づくり機能のニーズの増加が見込まれる。
- 近隣には類似機能を持つ民間のスポーツ施設も1施設以上配置されている。

**(検討の方向性)**

- 生活習慣病予防など対象者を重点化した事業を担う機能の中央集約について検討が必要。
- 運動指導機能については、他の公共施設や民間類似施設の活用による駅周辺などの拠点への配置について検討が必要。
- 運動・トレーニング、運動教室の機能については、より身近な地域で確保するため、小中学校のさらなる活用や、民間施設との連携について検討が必要。

(5) 市営住宅**(現状と課題)**

- 4割以上が築30年以上であり、今後更新需要の本格化が見込まれる。
- 応募倍率は20倍前後で推移しており、入居希望者は依然として多い。
- 平成20年の市内の空き家数は13万6千戸であり、年々増加している。

**(検討の方向性)**

- 今後見込まれる人口減少や更新需要の本格化、さらには、市内空き家の増加状況を踏まえ、管理戸数の総量抑制について検討が必要。
- 総量抑制に当たっては、市内空き家の増加傾向を踏まえ、これらの空き家の有効活用について検討が必要。
- 少子高齢化を踏まえた「歩いて暮らせるまちづくり」を目指して、民間と連携し、高齢者向け居住機能を駅周辺に配置するとともに、良好なコミュニティ形成を図るため、団地及びその周辺地域における若者世代の居住機能や生活利便機能の誘導について検討が必要。